



山梨県障害者差別解消支援ネットワーク会議

【トピック】

- 障害者スポーツ大会が愛媛県で開催されました。
- 障害者週間は、12月3日から9日までです。
- 株式会社キトー様の障害者雇用の取組が厚生労働大臣表彰を受けました。

事務局：山梨県障害福祉課
〒400-8501
山梨県甲府市丸の内1-6-1
Tel 055-223-1460
Fax 055-223-1464
E-mail shogai-fks@pref.yamanashi.lg.jp

第17回全国障害者スポーツ大会が、10月27日から30日にかけて愛媛県で開催されました。選手団の出発に先立ち、本県選手団の結団式が10月26日に県庁前庭で行われました。式では、後藤斎県知事や木内孝明県障害者スポーツ協会副会長の激励を受け、総勢35名の選手団を代表して山下正人団長（県障害者スポーツ協会会長）が大会参加への決意表明を行いました。

第17回全国障害者スポーツ大会 愛顔(えがお)つなぐえひめ大会



➤ 全国障害者スポーツ大会のシンボルマーク

障害者スポーツ大会は、1965年から始まった身体障害のある方々を対象とした「全国身体障害者スポーツ大会」と、1992年から始まった知的障害のある方々を対象とした「全国知的障害者スポーツ大会」を統合し、2001年から国民体育大会終了後に同じ開催地で行われています。大会の目的は、障害のある方々の社会参加の推進や国民の障害のある方々に対する理解を深めることにあります。

今大会では、台風による悪天候のため日程の変更、一部競技の中止と選手の皆さんにはつらい状況がたくさんありましたが、どの選手も持てる力を発揮し競技に臨みました。



➤ 県庁広場での結団式及び 知事からの県旗の授与 (10月26日)

競技結果 3位までの入賞者紹介

紙面の都合で3位までの入賞者を掲載します（敬称略）

陸上 輿石和之 100m 第2位
小宮山浩司 ジャベリックスロー 第1位
青木真弓 ジャベリックスロー 第2位

水泳 村松由里 25m自由形 第1位
25m背泳ぎ 第1位

卓球 後藤 崇 一般卓球 第1位

フライングディスク
久島 真 アキュラシー・7m 第3位
中村祐太 ディスタンス・シティング 第3位
齊藤美咲 ディスタンス・スタンディング 第2位

ボウリング
佐藤直哉 青年 768点(3G) 第2位
中嶋晃生 少年 665点(3G) 第2位

全国障害者スポーツ大会では、個人競技6競技（陸上、水泳、アーチェリー、卓球・サウンドテーブルテニス、フライングディスク、ボウリング）、団体競技7競技（バスケットボール、車いすバスケットボール、ソフトボール、グランドソフトボール、フットベースボール、バレーボール、サッカー）の計13競技があります。障害種によっては、各競技ごと障害の状況に応じていくつものクラスに分かれて実施されます。

県では、全国障害者スポーツ大会の予選を兼ね、県障害者スポーツ大会を4月30日、5月7日・14日に実施しました。この県大会は、スポーツを通じて、「機能の回復と体力の維持増強を図り、自らの障害を克服」し、「明るく勇気と希望を持って、た

くましく生きていく能力を育てる」とともに、「社会の理解と認識を深めること」を目的として開催されています。種目は上記個人競技の6種目ですが、緑が丘スポーツ公園室内プール・体育館、小瀬スポーツ公園山梨中銀スタジアム、県立盲学校などを会場にして開催されました。出場は13歳以上で、特別支援学校の中学・高校生から県内の事業所や施設利用の方々まで様々な年代の人たちが出場します。各競技場では、家族や学校・事業所・施設関係者を中心に大勢の人たちが声援を送ります。一般の方々にも広く知られ、さらに応援の声が多くなると選手のやる気も増すのではないかと思います。

ここでは、いくつかの特徴的な競技について、競技方法などを説明します。

競技の説明

※使用した説明画像は「公益財団法人日本障がい者スポーツ協会」のホームページから許可を得て転載しました。

- 陸上競技には車いすのスラローム競技、投てきにはソフトボール投げ、ジャベリックスローとビーンバッグ投を含みます。ジャベリックスローはターボジャブという用具をやり投げの要領で投げて飛距離を競います。



- **ビーンバッグ投げ**
～大豆などを入れた布製の袋(12cm×12cm、150g)を投げて飛距離を競う



- **ジャベリックスローで使用するターボジャブ**
(約70cm、300g)



- **車いすスラローム**
～コース上に設定された前進・後進の旗門を通過して進む競走競技



- **視覚障害者の競走競技(障害の状況で伴走が認められる)**

- グランドソフトボールは視覚障害者の野球で、試合は1チーム10人で全盲選手4人、弱視選手6人の構成。投手は全盲の選手で、捕手の掛け声や手ばたきの音を頼りに玉を転がし投球します。他の全盲選手はサードやライトショートなど内外野を守ります。ベースは選手の接触を防ぐため守備用と走塁用があり、各ベースごとコーチズボックスがあります。攻撃側コーチがボックスから声や手ばたきで走る方向を知らせて、「Go、Go!」「Stop!」と走る選手にベースの位置を知らせます。コーチと選手の信頼関係が大切です。全盲の選手がゴロを捕球した場合は、「フライアウト」となります。グラウンドで球を追う全盲選手の動きを、緊張とともに静かに見守ります。



- **グランドソフトボール(投手の投球フォーム)**
～ボールはハンドボールタイプの専用球を使用。投手はカーブやシュート、逆回転のチェンジアップなどの多彩な球種を使う。



- **全盲打者のバッティングフォーム**



- **フライングディスク競技は、正確なスローを競うアキュラシーと飛距離を競うディスタンスがあります。**

- **フライングディスク(アキュラシー競技)**
5m及び7mの距離から10枚のディスクを投げて、リング通過枚数を競う。

- サウンドテーブルテニスは視覚障害者の卓球で、卓球台の中央部に卓球のネットを下を玉が通るように逆さまにはり、金属球が入った球を使ってラバーの貼ってないラケットでプレーします。



- **サウンドテーブルテニス**
～中央部に継ぎ目のない専用の卓球台で、ラケットの打球音や玉の音を頼りに競技する。

12月3～9日は障害者週間

障害者週間は、障害者基本法で「国民の間に広く障害者の福祉に関心と理解を深めるとともに、障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する意欲を高める」ことを目的に、設定期間も毎年12月3日から9日までと定められています。

県では、障害者週間の12月7日に「障害者の主張大会」(県防災新館オープンスクエア、午後1時開始)を開催します。昨年度は9人の発表者が強い意志で歩み続

ける体験を発表し、生きることへの思いを熱く語りました。今年も、参加される皆さんの熱い思いに直接触れたいと思います。ぜひ会場で直接聞きたいという方は、県障害福祉課へお問い合わせください。

県は障害者週間の期間以外にも、障害者芸術文化祭の実施、心のバリアフリーポスター・標語募集の事業などに取り組んでいます。様々なイベントを通じて、障害者福祉への関心と理解をさらに深め、すべての方の生きづらさの解消を目指しています。

「障害者雇用優良事業所等の厚生労働大臣表彰」 「平成29年度障害者雇用職場改善好事例」

通信No.11で障害者雇用の好事例として紹介した株式会社キトー様の取組が障害者雇用を目指した職場改善好事例の最優秀賞(厚生労働大臣賞)を受賞しました。

厚労省のホームページによると、表彰理由は「障害者の雇用管理上の課題を分析し「手話ボードや自動ドア・スロープの設置など障害特性に応じた個別的体系的に支援」とするとともに、職場で「相互のコミュニケーションやキャリアアップに向けた取組を充実」し、「企業の組織的・継続的な対応がなされた」ことが高く評価されました。

同社はホームページで「障がいの程度や種類を基準にするのではなく」「適性に合わせて仕事内容をマッチング」させて「様々な個性をもった方たちが働ける」ことを基本として「障がいの有無にかかわらず、誰もが働きやすい企業を目指したい」と述べています。

推進員日誌 障害者差別解消推進員の日々の思いから

筆者も、かつてグランドソフトボールの山梨県チームにコーチとして加わり、昭和61年の山梨国体後に開催された「全国障害者スポーツ大会」に向けた数年間を選手とともに過ごしました。毎週末の練習や県内外での試合は思い出深く、今でも様々な場面を思い起こすことができます。山梨県チームは、今年度は関東大会の決勝で東京都代表に惜敗し、全国大会へは出場できませんでした。「山梨グランドソフトボールクラブ」のホームページでチームメンバーが紹介されていますが、監督の三枝利仁氏の他選手15名のうち7名が当時から活躍している方々です。全国障害者スポーツ大会では平成17年、18年、24年に優勝しています。不断の努力を怠らないチームの皆さんの頑張りの素晴らしさを感じるとともに、年齢を重ねても若々しくプレーするかつてのチームメートにエールを贈りたいと思います。

編集及び文責：古屋徳康(県障害者差別解消推進員)